

アトリエ41制作

# ドン・ペルリンプリンと

## ベリーサの恋 — 四景 —

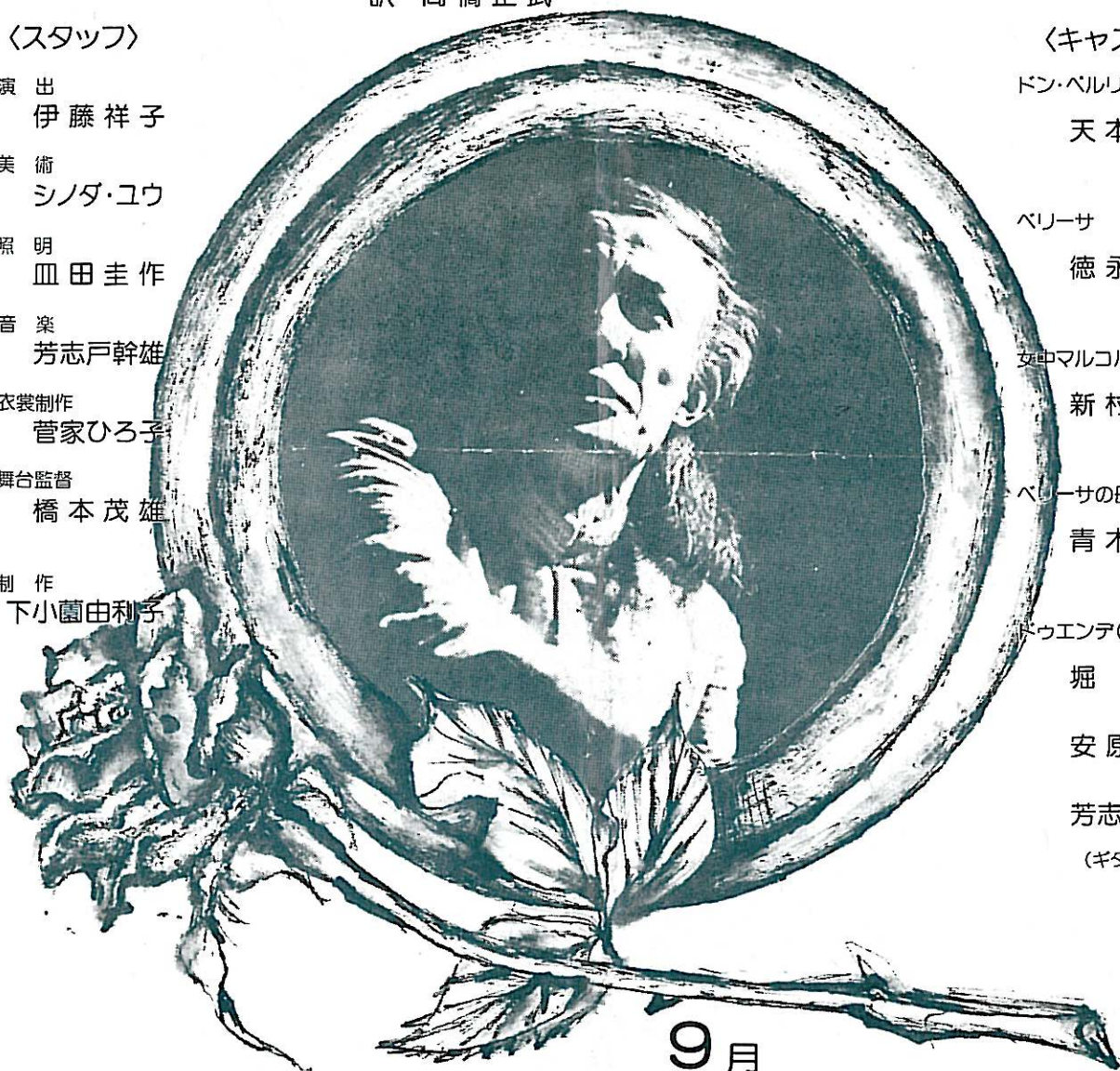
作 フェデリコ・ガルシア・ロルカ  
訳 高橋正武

### 〈スタッフ〉

演出 伊藤祥子  
美術 シノダ・ユウ  
照明 皿田圭作  
音楽 芳志戸幹雄  
衣裳制作 菅家ひろ子  
舞台監督 橋本茂雄  
制作 下小園由利子

### 〈キャスト〉

ドン・ペルリンプリン 天本英世  
ベリーサ 徳永街子  
女中マルコルファ 新村礼子  
ベリーサの母親 青木和子  
ドゥエンテ(鬼ころ) 堀 絢子  
安原義人  
芳志戸幹雄 (ギター演奏)



場所 バフレストランジロー  
新宿スカラ座ビル6F  
Tel. 356-6580

9月

3(土) 4(日) 5(月) 6(火)

鑑賞券 ¥ 1,800 (飲物付)  
全席自由

開演 平日 9:00 pm (上演時間1時間)  
日曜 3:00 pm 7:00 pm の2回

予約・お問い合わせ アトリエ41 Tel. 404-1917



ドン・ベルリンプリンと  
ベリーサの恋 一四景

愛してよ 愛……………

堅くとぞしたあたしの脚の間で  
芦の葉かけの なまあったかい水のなか  
小魚みたいに陽が泳ぐ  
愛のほむら—————

聞えるでしょう むきだての水蜜桃のような  
そして あの白い砂糖菓子のような  
ベリーサの歌声が……………

愛よ わたしの手をとっておくれ  
わたしは愛の痛手を受けて  
痛手を受けてやって来た  
飛び去った愛に傷つき  
愛にもだえて—————

見えるでしょう 歳<sup>トシ</sup>五十を越して  
老いの近づくこの日まで  
書物を友として過ごして来た  
ドン・ベルリンプリンの後姿が……………

今宵みなさまにお目かけますは  
四景のファルス 愛の芝居絵にございます

— かいせつ —

ロルカの戯曲の中で、三大悲劇といわれる「ベルナルダ・アルバの家」「イエルマ」「血の婚礼」などに比べると、この「ドン・ベルリンプリンとベリーサの恋」はまこと小品である。しかし、このような作品をまさに珠玉と言うのだから。ロルカの詩的世界を表現しようとする目的が、演劇という形に見事に結実している。人間が生きる意味、何が人間の魂を、そして肉体をつき動かすのか？ その一途な行為はまことに滑稽であり、悲哀にみちている。ベルリンプリンの孤独な魂の中における、ベリーサの肉の中における、これは夢と現実の相克であり詩人ロルカの内なる詩と現実の葛藤であり、想像力という武器を持って「劇」という世界に生きようとする人間もまた、同様なのだ。

老いが近づくというのに、孤独の中にじっと閉じ籠っているベルリンプリンが、若く甘い蜜のように匂う肉体ベリーサを初めて見た時から、彼の家の書斎・寝室・食堂・そして最後の庭の場へと急速に進行する四景の場面は、何物かに憑かれた如く自分を追い込んでいくベルリンプリンの心臓の高鳴りを伝えて震える。抗うことの出来ない時間が過ぎて行く。ファルスの典型的なシチュエーションから始まり、突如グロテスクな音色が奏でられこのひとりの男の運命劇は演じられる。

■新宿スカラ座ビル店



新宿明治通り伊勢丹前スカラ座ビル6F ☎356-6580

第二次大戦前夜、故国を追われた937人を待つ悲劇！  
神よ———いったい私達が何をしたというのですか！

カラー作品  
アメリカ映画  
さすらいの航海

スチュアート・ローゼンバーグ監督・作品  
原作・早川書房刊  
音楽ラロ・シプリン(サントラ盤セブンシーズ)

フェイ・ダナウェイ  
キャサリン・ロス  
マックス・フォン・シドー  
マルコム・マクドウェル  
リン・フレデリック  
オーソン・ウェルズ  
リー・グラント  
サム・ワナメイカー  
マリア・シェル  
ベン・ギャザラ

今秋・感動のロードショー！

ヒビヤ 有楽座



VOYAGE OF THE DAMNED

Herald 日本ヘラルド映画